

C 2025 SEPTEMBER
[第2044回]独創的な響きで
北欧の情景を描いたジャン・
シベリウス

Jean Sibelius (1865–1957)

若きシベリウスは、ヴァイオリン奏者を目指していたこともあったが、極度のあがり症で演奏家への道を断念、作曲家への道を歩むこととなる。フィンランドの民謡に根差しながら、自らの作風を確立させた《4つの伝説》は、シベリウスの初期作品のなかでも指折りの傑作だ。壮大な自然が目の前に広がるかのような、神秘的で独創的な響きが聞かれる。ここで見出した自身の方向性が、彼をフィンランドを代表する作曲家へと押し上げた。

民族叙事詩『カレワラ』

「カレワラ」とはフィンランド語で「英雄^{カレワ}の国」の意で、フィンランドを指す。古くからフィンランドで伝承されてきた神話的な英雄叙事詩が1835年にまとめられて出版されると、大きな反響を呼び、その後のフィンランド人の精神的支柱となった。シベリウスも熱心に読み込み、『カレワラ』を題材とした作品を多く作曲している。

美しい白鳥が黄泉の国の黒い川で羽を休める | イラストレーション: ©IKE